



「彼が受けたる傷によりて、われらいやされたり」

ヨハン・セバスティアン・バッハ
Johann Sebastian Bach

マタイ受難曲

Matthäuspassion BWV244

ドイツ・バッハゾリステン
ヘルムート・ヴァインシャーマン / 指揮

—— 独 唱 ——

テノール(福音史家)：マーティン・ペッツォルト
バス(キリスト)：三原 剛
ソプラノ：豊田 喜代美
アルト：佐々木まり子
テノール：佐々木正利
バス：福島 明也



—— 管弦楽 ——

ドイツ・バッハゾリステン

—— 合唱指揮・佐々木正利 ——

—— 合 唱 ——

盛岡バッハ・カンタータ・フェライン
仙台宗教音楽合唱団
岡山バッハ・カンタータ協会

児童合唱：
盛岡市立東松園小学校 / 盛岡市立上田小学校 /
盛岡市立中野小学校 / 岩手大学教育学部附属小学校

'93 **10/20** (水) 6:30PM 開演
岩手県民会館大ホール

■ 入場料 / 全席指定7,000円

■ 前売所：〈盛岡〉日専連盛岡専門店会 / 大通佐々木電気 / 川徳 / アネックスカワトク / カサレディ / フェザン / 中三 / 県民会館 〈花巻〉誠山房
〈北上〉イトー・ヨーカドー 〈水沢〉メイプル 〈釜石〉共栄サンバルク 〈宮古〉サンホーユー宮古店 〈久慈〉ショッピングプラザ緑屋

■ 主催 / 財団法人岩手県文化振興事業団

■ 協賛 / ホテルメトロポリタン盛岡・ チャンスセンター

■ お問い合わせ / 〒020 盛岡市内丸13-1 県民会館事業課 ☎(0196)24-1171

「マタイ受難曲」

今ここに在るわれわれのすべてに罪の赦しと
死の超克のはじまりを、神からのおとずれとして
宣べかつ歌う、福音の音楽。

■ ドイツ・バッハゾリスト DEUTSCHE BACHSOLISTEN



1962年に初来日した折のドイツ・バッハゾリストの演奏は、そのメンバーの豪華さと相まって、いまだに語り草となっている感動的なものだった。以来、来日の度に常に生き生きとした躍動感に富むバッハの理想像の名演を披露してきた。

このドイツ・バッハゾリストを組織したのは、オーボエの世界的名演奏家としても著名な、バッハ研究の権威ヘルムート・ヴィンシャーマンである。1960年よりドイツ中から集まってくる第一級の優秀なバロック音楽の演奏家たちによって、文字通りの“バッハ・ゾリスト（バッハを得意とするソリストたち）”を結成した。従って、この団体のメンバーは必ずしも一定せず、12名から20数名までと自由に構成されている。が、常に指揮者ヴィンシャーマンの深い研究に基づく正統的な解釈による格調高い演奏を行ない、その学究解釈に裏打ちされた生命感と喜悦感に溢れた演奏は、メンバーの変動によっても些かも変わらない。「バッハにもっとも忠実に明るく、楽しく、喜ばしく」というヴィンシャーマンのモットーどおり世界中の人々の心に感動をもたらし、世界のバッハ演奏の規範となっている。

前回来日時にもヴィンシャーマンのバッハ演奏がさらに広い視野にたつと評されており、巨匠ヴィンシャーマンのこれまで以上に円熟した、生気溢れる演奏が楽しみである。

■ ヘルムート・ヴィンシャーマン(指揮) HELMUT WINSCHERMANN, CONDUCTOR



ドイツ・バッハゾリストの創立者であり、音楽監督。1960年より世界的なコンサートを開始する。1962年オールバッハプログラムで日本初のコンサートを行なう。多くの一流アーティストと協演のレコードを50枚以上出し、次々と新境地を開いている。

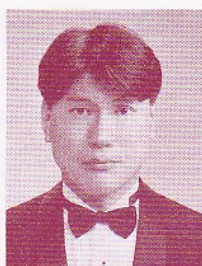
世界有数のオーボエ奏者であり、デトモルト音楽大学教授であるヴィンシャーマンは、宮本文昭やハンスイェルク・シェレンベルガー（ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団首席オーボエ奏者）らを育てた。彼はまた友人のクルト・トーマス（ライブツィッヒの聖トーマス教会合唱団の指揮者）の元で指揮を学んだ。

日本では、1980年にバッハの“ヨハネ受難曲”を、1982年にはバッハのカンタータを指揮し、また草津夏期国際音楽フェスティバルの客員教授も務めている。

■ ソリスト



テノール(福音史家)
マーティン・ペッツォルト



バス(キリスト)
三原 剛



ソプラノ
豊田喜代美



アルト
佐々木まり子



テノール
佐々木正利



バス
福島 明也



■ 盛岡バッハ・カンタータ・フェライン

1977年「カンタータを歌う会」として発足。以来、一貫してJ・Sバッハの作品を中心としたドイツ・バロック合唱曲の研究、演奏を行っている。その演奏が1991年ドイツにおいて「作品の語感、音、そして精神の完熟」という現地新聞の批評を受けるに至るまでには常任指揮者、佐々木正利のドイツ・バロック音楽に対する卓越した見識に基づき、熱意溢れる指導の積み重ねがあった。

これまでの主たる活動としては、2回のドイツ演奏旅行でのメサイア、クリスマスオラトリオ等の演奏、ヨハネ受難曲、口短調ミサ曲を始めとする多数のカンタータの演奏があり、いずれも好評を博している。

今回は特別公演として、市内の児童合唱団の共演により、記念すべき岩手県初演となる「マタイ受難曲」の心の音を歌い上げる。